



## チョークは何でできているの

### 石こうや炭酸カルシウムから作る

チョークは、白ぼくともいわれ、昔から、黒板に字や絵をかくものとして、長い間使われています。チョークは、手があれたり、特に、書いた字を消すときには、チョークの粉がとんだりしますが、便利なものなので、使われ続けています。

チョークには、天然に産する、石こうを原料にするものと、チョーク(白亜)という、炭酸カルシウムを、原料にするものがあります。

石こうを原料にするチョークは、石こうを、400～500℃以上に加熱します。これを型に入れて、おし固めて作ります。炭酸カルシウムのチョークは、炭酸カルシウムの粉を水でこね、型に入れて作ります。

炭酸カルシウムのチョークは、石こうから作るチョークよりも、かたくて重く、水に入ると、とけてしまいます。

### 日本では1875年に作られた

日本では1873年に、フランスから輸入された、石こうのチョークをもとに、大阪の杉本卯之助が、製法の研究を始めました。そして、2年後に、中国産の石こうを焼いたものをくだいて、水と混ぜ、すず製の型に入れて作った、といわれています。

炭酸カルシウムのチョークは、アメリカで作られましたが、日本でも、炭酸カルシウム(石灰石)を、たくさん産出するので、1935年ごろから、生産されるようになりました。

(監修・青木 国夫)

